

平成29年度第1回境港市総合教育会議  
会議録

平成29年11月27日





教育委員会事務局長      チューブ洗浄は基本的には、夏の冷房への切り替えの時に  
行います。工期は、実際に作業をするのが二日間、ただ、人員の調整  
等がありますので20日程度かかります。

中村市長                      土日でもできるのか。児童生徒に影響がでないようにできるの  
か。

教育委員会事務局長      機械を止める期間は二日間程度ですので土日に作業をすれば影  
響がありません。

中村市長                      そのほか質問はありませんか。

十河委員                      I C T（情報通信技術）に関連してですが、現代社会では I C  
Tの発展によって情報社会となってきました、これからもグロー  
バル化、情報化が進んでくると思います。この中で子どもたちが  
情報活用能力を付けるためにコンピュータや情報通信ネットワー  
クが活用できるための環境が必要だと思っております。平成29  
年12月にパソコンのリースが終了するにあたり機器の入れ替え  
のタイミングになるわけですが、小中学校ともにタブレットを導  
入していただいて、普段の授業の中で個人・グループでタブレッ  
トを使って、学びを深めるようになることができるようになる  
良いと思います。そのようにタブレットが教室でも使えるにする  
ために無線のLAN、光ファイバーによる通信速度の高速化など  
I C T環境整備の予算確保をお願いしたいと思っております。また、今  
年度小学校の5・6年生の教室に大型液晶ディスプレイが配置さ  
れ、非常に好評だと聞いております。来年度は、中学校にも大型  
液晶ディスプレイの配置をお願いしたいと思っております。

中村市長                      予算要求は一括してするのか。

学校教育課長                一括して要求いたします。

中村市長                      ほかに質問等ございませんか。

酒井委員                      A L T（外国語指導助手）の配置についてですが、小学校で平  
成32年度から新学習指導要領が実施されて3年生、4年生、5

年生、6年生で英語を勉強するようになるということですが、境港市では、来年度から3・4年生でも先行実施で英語活動を始めると聞いておりました、やっぱり英語でのコミュニケーションの力をつけるのはALTの活用が大変有効であると思っております。現在、中学校区ごとに1名ずつのALTを配置していただいておりますが、中学校以外に4つの学年の子どもたちが英語の学習を行うようになればALTもより多くの人数が必要だと思っておりますので、英語教育に力を入れている境港市としては質の良い指導力のあるALTを配置していただければと思います。昨年度も希望いたしました重ねてお願いいたします。

中村市長

ALTを配置するための予算額について説明をお願いします。

学校教育課長

現在、1名を業務委託で約500万円弱の人件費で計上しております。来年、2名になりますのでその2倍の1,000万円での要望とさせていただいております。現在、市には県のJET（中学・高校生の外国語教育の一環として、外国青年を日本に招く事業）配置で1名、市で1名、業務委託で1名の計3名で回しています。来年、1名増やしていただいた場合4名になりますが、それでも小学校で先行実施をしていますが週に二日ぐらいしか出向けない、なんとか週に二日出れば5・6年生と3・4年生に分けてなんとかぎりぎりという状態です。中学校も週に二日ぐらいしか回れないという状況になりますので、のちのちはもう少し十分な指導ができるためには、人を配置していく必要があると考えながらALTの配置計画を作っているところであります。

中村市長

この1,000万円で2名配置するということになる、ALTが4名になり、市の単独予算分が何名か。

学校教育課長

3名になります。県の予算分が1名。県のALTの配置が平成31年度の夏で終わってしまうので、ここで1名減になります。平成31年度以降も人員について考えていかなければなりません。

中村市長

これは県政要望には出しているか。

学校教育課長

国県要望で出しています。

中村市長 英語は教科化になるわけだから、国や県がしっかりとした制度をつくらないといけませんね。元気のあるところは市が単独で予算をねん出してやる、そんなことではいけません。教科化となるわけだから国あるいは県が責任をもって助成をしてしっかりとした体制をとらないといけませんね。この2名分というのは、JETプログラムによるものか。

学校教育課長 民間に業務委託をするものです。

中村市長 では質のいい方ですね。ずいぶん違うそうなんですよ。この点についてもやっぱり国が考えないといけません。JETプログラムは国際交流の色彩が強く、子どもたちに専門的に教える者ではない。教科化になったわけだから、民間の優秀な教えることができる人を国が面倒をみななければいけません。そういったところ要望しているところです。4名体制になるわけですね。JETの分は国から助成があるのか。

学校教育課長 交付税措置があります。

中村市長 県の分は10分の10が負担されるのか。

学校教育課長 県は10分の10です。県の指定事業を外江小学校が受けているのでそのために県が配置しているALTのです。この事業は平成31年度に終わります。

中村市長 この2名分がJETプログラムだといくらになるか。

学校教育課長 JETプログラムでも一人約500万円になります。

中村市長 変わらないなら優秀な人が良い。

学校教育課長 ですが、9割程度の交付税措置があります。市の持ち出しがあるかないかになります。先ほど言われたように、いい人が来ていただければよいのですが、決してそうとは限りません。途中で帰られたりすることもあって、なかなか難しい。途中で帰られても、派遣されるのが8月なので、8月まで待たないと新しい人を派遣されません。もし途中になにかあった場合にはその期間は空

いてしまうこととなります。民間委託だと、もしなにかあっても代替りの人を配置してもらえます。もし条件が悪くても、こちらが申し出れば対応してくれるということもあるので、質の確保は民間の方がしっかりしています。

松本教育長

教育長会でもこのことを非常に問題視しておりまして、先日、中国地区都市教育長会がありまして、文科省からも財務担当が来ておりましたが、真っ先にこの問題が議論になりました。鳥取県だけではなく、全国的に質の違いというものを教育委員会として憂慮していて、民間の方に切り替えたいんだけど、国からの交付税の措置がない。それに対して、文科省は問題意識は持っている、ただ財政とのやりとりの中で、文科省は6,700という枠を持っていて全国に配置する計画なんです。JETは。ところが実際には、人気がないので5,000ぐらいでとどまっていて、財政の方からは、6,700満額埋まったら考えましようと言われていて、ぜんぜん話が通らないという状況です。こうやって地方からどんどん声を上げていく必要があると感じました。

中村市長

教科化になるわけだから、しっかりとした教育ができる体制をとらないといけません。そのほか質問等ありませんか。

徳永委員

国際理解推進事業なんですけど、今は中学校2年生が根室と東京に行っています。うちの子がこの事業で韓国と中国に行かせてもらったのですが、これをきっかけに大学に行っても留学先を韓国に選びました。この事業で韓国に行ったときにおじいさんおばあさんは日本語を話すし、街には日本語があふれているし、親切な人ばかりと言って、帰ってきました。そのときちょうど情勢が安定していないときで、親は心配していましたが、行ってみるととてもいい人ばかりだった、そういうことを体感して帰ってきたので、若いときにこういう事業があって行かせてもらおうと、そのあとの人生が大分変わってきたんだなと思いました。この事業が安定していけばいいなと思います。

中村市長

そうですね。今はもろもろの事情があって、国内にしていますが、最初は中国に行っていました。中国もスモッグが大変で、PM2.5とか。健康上よくないんじゃないかということで韓国に変えました。そして韓国ではSARSがあってそれでやめてしま

いました。それだったら国内でやろうかということになりました。徳永委員がおっしゃるようにまた、中国・韓国に限らず、中海カナダ協会というのがありますのでカナダだとか、いろんな選択肢があると思います。韓国も北朝鮮の情勢がよくなれば行くこともできますし、中国もPM2.5の対策をとるようになっているようですからいいじゃないでしょうか。カナダは水産関係でずいぶん取引があります。東南アジアもありますし。おっしゃるようにそういう機会を得て、その後ずっと関心を持ち続けるというのは、それこそ国際交流、国際学習じゃないかと思います。教育長とよく話をして今後は考えていきたいと思います。予算要求はどこにしているか。

学校教育課長

教育委員会、議会からも海外に出ていった方がいいのではないかという意見はいただいています。来年度は海外にでてみようかと考えており、見積もりをとりまして、一つはシンガポールがどうかと思い280万円、生徒6名大人3名。あとは香港便があるので香港がどうかと思っています。カナダという話も出ましたが、境港市は移民とかでつながりがあるので、これも見積もりを取ってみました。500万円でした。夏の一番いい時期で値引き等もないです。

中村市長

シンガポールの280万円は意外と安いんじゃないんですか。今の予算はいくらか。

学校教育課長

今は180万円の予算です。人数は同じです。

中村市長

シンガポールは東南アジア、北東アジアを含めて中心的な街です。金融センターとか非常に勉強になるのでは。今の事業から100万円程度増えるだけです。わかりました。そのほかございませんか。(なし)ないようですので、皆さんから出していただいた意見は、予算の査定の時でも、実現に向けて考えたいと思います。

それでは次に、全国学力学習状況調査について、分析結果を説明してください。

※学校教育課長が資料に基づき説明



中村市長 分析結果の説明がありました。委員の皆さんからご意見等ございませんか。

中学校はがんばっているんだね。いい結果が出てますね。毎年ですか。

学校教育課長 去年は苦戦いたしました。

中村市長 学年によって力がちょっと違うんですね。

学校教育課長 多少中学校によってばらつきがありますが、小学校から落ち込んでいるわけでもないです。中学校になると勉強が難しくなりますのでだんだんおちていく傾向の方が強いんですけども、ふんばってもらっているかなと感じています。

中村市長 この内容はどこまでホームページで公表されているのか。

学校教育課長 この分析結果は市の教育委員会のホームページで公表しています。各学校では、各学校で分析した結果を手紙で配布するとともに、ホームページでも出しています。

酒井委員 この調査の結果から、テレビ・ゲーム・スマホのメディアに触れる時間の減少ということと関連して、家庭学習時間の確保というのが、年を追うごとにますます大きな課題になっていると思います。この二つはやっぱり、学校と家庭が連携して、取り組んでいく非常に重要なことだと思っています。これまでも学校の方では家庭学習時間を増やすように、保護者の方に呼びかけして協力を得て取り組んだり、小中学校の連Pでもメディアに接する時間、スマホに触れる時間を決めるという取り組みをなされていたと思うんですが、成果もあったと思います。それが今も続いているかはわからないのですが、連携をこれからも続けていただけて、成果があがるようにしていただけたらと思います。事務局からもアプローチをしていただけたらと思います。

松本教育長 今年度から、コミュニティ・スクールの準備に入っただけですけども、私の願いはやはり、家庭と学校がいかに連携できるツールを作っていくのか、先生は呼びかけるんだけれども、一方通行だけというのが今までの環境だったと思います。これをともにと

いうスクラムが本当に組めるような。それは何かと考えたときに、今ある制度ではコミュニティかなと思いました。これをきっかけに機運を高めていきたいというふうに考えます。

十河委員

今、PTAでもメディア21という取り組みを県のPTAとはやっではいる状態なんです、PTAではメディア21でスマホ、タブレット、テレビを21時まで使うのをやめましょうということをお願いをしていると思うんですが、各家庭での取り組みとの差はかなりあるように聞いています。家庭と学校の連携というのがいまいちかみ合っていない部分があるかなと思います。学校の方からかなりアピールはしていただいているとは思いますが、そのあたりかみ合っていないかなと。テレビ番組は面白いように作ってあるのでどうしても見てしまうので、そこはやはり親が制限をかけて、きちんと勉強をする時間を確保する必要があると思います。

松本教育長

かつて鳥取県が早寝早起き朝ごはんという事業をしていましたがたいしたことないと思っていましたが、キャンペーンをはって展開して、みんなが意識して、言葉で言えるようになって、それで鳥取県の子どもたちが変わったなと思うようになりました。それまでは、鳥取駅に行けば、なんか恐ろしいような高校生の雰囲気があったりして、あれがガラッと変わってきましたので。市としてもそういったキャンペーンみたいなものやっていきたいなと思います。

中村市長

児童へのアンケートでは96%が宿題していると書いてあるんですね。この通りだったらまずまずの結果ではないでしょうか。

学校教育課長

小学校では、かなり家庭学習をしているという結果が出ています。習慣がついているかなと。中学校になるとやはり、少し自主性にまかせたりする時期であるので、親の接し方も変わってきます。

中村市長

宿題をやってきたかどうかは先生が目を通すのか。

学校教育課長

小学校では必ず通されますけれども、中学校では教科制ですので、ばらつきがあったりします。宿題の出し方は中学校の方が難

しいです。宿題が先生の出し方によってはいっぱいになることもありますし、出ないときは出ないということもあります。よく中学校でやっているのは、今日の宿題は何かということを書き、何が出ているかということをよくわかるようにする取り組みが行われているところがあります。毎回宿題が出る教科があれば、たまにしか出ない教科もあつたりするので、そのあたりが小学校とは質が違ってきます。宿題が重なってしまうと一日ではできないような量になって困っているような子もいたりします。そういうところもこれからは小中連携の中で、小学校6年生と中学校1年生をうまくつないでいく環境というのも一つのポイントなのかもしれません。学校文化を教員どうしでも知らないのです。

中村市長

いずれにしても学校と家庭の連携をもっともっと密にしていく方が必要ですね。学校先生自身の質を高めていくという取り組みも必要だし、ぜひ新年度にはそういった視点で、教育委員会として学校と連携してください。

そのほかございませんか。（なし）それでは次に境港市校区審議会からの最終答申について説明してください。

※学校教育課長が資料に基づき説明

中村市長

この案件は報告ということでしょうか。（はい）わかりました。この最終答申を受けて教育委員会の方で方向性を出していただいて最終的にはこの総合教育会議の中で議論をしていくことになろうかと思えます。本市の学校教育の大きな転換点なる案件でございますので大変ご尽力をいただくことになろうかと思えますがよろしくお願ひしたいと思えます。それでは本日の議事は以上であります。お疲れさまでございました。